



湖国の感動 未来へつなぐ  
わたSHIGA輝く  
国スポ・障スポ 2025

第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会

# 人とまちを健やかにする スポーツの力

日本最大のスポーツの祭典「国民体育大会」は、令和6年の佐賀大会から「国民スポーツ大会」に名称が変わります。  
「体育」と「スポーツ」の違いはなんでしょう。「スポーツ」は、世界共通の人類の文化である「とスポーツ基本法の前文にあります。心身を鍛えるだけでなく、心と体を豊かに健やかにしてくれる文化という意味をもっています。  
令和7年の「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」では、湖国を舞台に躍動するアスリートだけでなく、応援する人や支える人、来訪者を迎える人など、すべての人が楽しみ、スポーツという文化が広く浸透するきっかけとなる多くの大会を期待されています。

スポーツ振興課 主事  
椎野 しおりさん



## 体育からスポーツへ 誰もが親しめる大会に

滋賀県を舞台に開催される「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」(令和7年・第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会)では、本市も複数競技の試合会場となります。  
昭和56年に県内で初めて行われた「びわこ国体」の思い出がある人も多いかもしれません。市内にあるスポーツ施設も、その時に建てられたものがたくさんあります。

を醸成する機会にもなっています。スポーツ振興課にはスポーツマンスもいますが、観る専門の仲間もいますし、私自身も社会人になりました。そうしたメンバーが創り上げようとしている国スポ・障スポは、活躍する多くのアスリートを支えて、男女総合成績第1位の天皇杯と女子総合成績第1位の皇后杯に近づくと、アスリート以外の多くの人が「見る」「支える」など、何かの形でスポーツに親しめる大会にすることを目指しています。

りました。指導者や家族など表舞台に出てこない、彼らを支える人たちの姿、身近なトップアスリートに憧れて努力を重ねる子どもたちの姿に誇りを感じています。  
国スポ・障スポ成功の先に  
元気なまちの未来がある

## 守山会場の種目

- 国スポ正式競技
  - サッカー(少年男子)
  - 野洲川歴史公園サッカー場(ビッグレイク)
  - パレーボール6人制(少年女子)
  - 市民体育館
  - 軟式野球(成年男子)
  - 市民球場
  - ソフトボール(少年女子)
  - 市民球場、市民運動公園ソフトボール場
  - 国スポ公開競技
  - エアロビック
  - 市民体育館
  - 国スポデモンストレーションスポーツ
  - 還暦軟式野球
  - 市民球場、市民運動公園スポーツ広場
  - ミックス(男女混合)パレーボール
  - 市民体育館
  - 障スポ正式競技
  - サッカー(知)
  - 野洲川歴史公園サッカー場(ビッグレイク)
  - 障スポオープン競技
  - ゴールボール
  - 市民体育館

## 成人各世代の週1回以上のスポーツ(30分以上)実施率

	平成20年	令和2年
全体	49%	60%
20歳代	30%	58%
30歳代	33%	53%
40歳代	41%	49%
50歳代	53%	48%
60歳代	62%	65%
70歳代	67%	76%
80歳代	-	48%

出典：守山市スポーツ推進計画

国民体育大会といえば、多くのアスリートが目標とするスポーツの祭典です。国際大会への参加も増えた今は、健康や活力の源として楽しむスポーツ文化

らつことも大切です。多くの人の思いがアスリートを支える。仕事を通して、市内にも国スポを目標に切磋琢磨するアスリートがたくさんいることを知

## バラの香りと花束でおもてなし

昭和56年びわこ国体で皇室訪問を受けて  
欲賀花き園芸組合 園長 啓司さん



欲賀花き園芸組合を代表して、父と兄と経営していたバラ園で皇太子ご夫妻(現 上皇ご夫妻)を迎え、バラ農園をご案内しました。わが子が生まれた年のことです。すごく緊張して、でも妃殿下の優しい口調で少しほぐれたのを覚えています。娯楽もまだ少ない時代で、国体の盛り上がりもすごかったけれど、皇室のご訪問のことは今も鮮明に覚えています。  
市内の競技に加えて、学生時代に打ち込んでいた卓球も観戦したいです。でも、やっぱり全国から来る人たちをバラの香りで歓迎したいという思いもありますね。

## もしかしたら…ワクワクするね

市内の競技会場に盛り上がり  
守山南中学校 女子ソフトボール部



女子ソフトボール部2年生(順不同)  
等田 詩さん(主将)、木村 心菜さん(副主将)、  
由中 心結さん(滋賀選抜)、新谷 明彦さん

ソフトボールは観るのもするのも楽しいスポーツです。私たちは、普段は個人練習が多いけれど、元気があって、ピンチの時や接戦の時に団結して力を発揮するチームです。  
国スポ出場は狭き門ですが、令和7年の国スポでは開催県として出場枠があります。守山が試合会場だし、滋賀選抜に選ばれた仲間もいるので、もしかしたら…と、考えるとワクワクします。

## オール守山のおもてなしを

市民も選手も楽しめる会場に  
守山市観光物産協会 水野 茂樹さん



守山市観光物産協会 右から  
水野 茂樹副会長、国スポ・障スポ守山市PR  
大使もーりー、清原 大晶副会長

昭和56年の国体の時、滋賀県中で「月ハロー びわこ国体」のキャッチがあふれていたのを覚えています。当時高校生で、ボランティアにも参加しました。  
国体から国スポへの大きな変化は、選手も観戦する人も迎える市民も楽しめる一大スポーツイベントになったこと。市内の数々のお店や特産品と、オール守山のお出迎いで、私たち観光物産協会は、参加するすべての人に「また、守山に来たい」と思ってもらえるように、おもてなしの準備を進めます。

## パラスポーツの魅力を観戦して

障害者スポーツへの理解深めて  
ユニスポもりやま 安井 裕子さん



障害のある私の息子は、障スポ正式競技「ボッチャ」の大会候補選手になり、本戦出場を目指しています。知的と身体に重複障害のある息子がボッチャを知ったのは養護学校高等部の頃です。スポーツの楽しさに出会えないと思っていた息子が、喜んで練習しています。  
ゴールボールやボッチャは、サッカーなど元になる一般競技がないので、知らない人には想像しにくいかもしれません。「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」では、障害者スポーツへの理解を深めると同時に、スポーツに打ち込む障害のある人の、はつらつとした姿を多くの人に観戦してほしいと思います。

ピックアップ

ピックアップ

# 夢も憧れも、目標もここに

## 女子サッカー 山下美結さん、高田七海さん、大谷未央監督

「わたしがHIGHA輝く国スポ・障スポでサッカー少年女子県代表入りを目指している。明富中学校2年生の山下 美結さんと高田七海さんは、ともにレイラック滋賀FCレディースU-15の中心選手として活躍しています。」

週5日の練習を共に過ごす個性の違うチームメイト



山下さんと高田さんは同じ中学校でもクラスは違うし、性格もブレースタイルも違いますが、週5日のクラブで一緒に練習を

して、試合ではチームメイトとして力を合わせます。もしかしたら、ライバルになることもあるかもしれません。

2人は小学生の時にサッカーを始め、中学生になって体験会に参加してクラブに入りました。体験会に行くまで「クラブで通用するかな」と不安で少し怖かった、と当時を振り返ります。

国スポでは県代表選手に実力も気力も出し切る

山下さんと高田さんは、ともに県強化選手です。チームとしては関西大会ベスト4に進む目標を、そして個人としては、湖国で開かれる国スポの県代表選手になる目標をもっています。「サッカーはすでに生活の一部になっていて、やっていない自分では考えられない。目標達成に向けて、今までの実力も気力も出し切って勝ちにこだわりたい」と力強く語り、2人は雪の

ちらつく中、チームメイトと練習に向かいました。憧れより目標になりたいピッチで輝く選手であれ

2人を指導している、レイラック滋賀FCレディース監督の大谷未央さんは、女子サッカーリーグで4度の得点王に輝き、日本代表選手(なでしこジャパン)として活躍していた元プロ選手です。

大谷さんが目指しているのは、選手たちの憧れになることではなく「この人を超えるぞ」と思ってもらいたいことです。

サッカーは激しいスポーツなので、けがをすることも、思うようなプレーができないこともあります。それでも2人には強い気持ちがあるから目標に向かっていける。だから、選手に一番大切な事は、ピッチに立った時にイキイキ輝いているかどうかだと話していました。



レイラック滋賀FCレディース監督 元なでしこジャパン 大谷未央さん



「相手のパスを崩せる選手に」 山下美結さん

「もっと点を取りたい」 高田七海さん

陸上競技 800m女子 西田有里さん(下之郷三丁目) 草津東高校陸上部 顧問 村上拓さん(吉身五丁目)

## 春から大学生、憧れたシニア選手と肩並べ、世界で駆ける



県陸上競技強化委員長であり高校陸上部顧問の村上 拓先生と一緒に切磋琢磨してきた高校時代は国体2連覇などの戦績を残し、オリンピック強化選手にも選ばれ、充実した選手生活でした。私を目標に陸上部に入る後輩もいたみたいで、少し照れるけれどもうれしいです。

もうすぐ大学生。それは、これまで憧れていた、世界で活躍するシニア選手と同じ舞台に立つということです。

練習メニューなども自分で組み立てることになるので心配もありますが、卒業後も先生に相談できそうなので安心です。まずは走ることを楽しみながら、小さな目標を一つずつクリアして自己ベストを更新、2025年の東京世界陸上に日本代表選手として出場することが夢への一歩です。

体操競技 2022栃木国体・2023鹿児島国体 少年女子 監督 寺田英莉さん(阿村町)

## 心・技・体が整えば、みんながアスリートになれる



大阪出身で、元体操競技女子日本代表として国際大会などを経験してきました。指導者になりたいと同志社大学スポーツ健康科学部で学び直し、結婚を機に守山市民になり、今年から体操の教室を開いています。

体操は特殊な競技と思われることもありますが、アスリートとしての芸術性や美しさを競う競技です。体幹やバネはすべてのスポーツの基本ですし、アスリートとは「心・技・体」が整っていることだと思っています。指導者はそのために子どもや選手との信頼を大切にします。

国スポは国内のオリンピックなので、少しプレッシャーもありますが、滋賀県選手が活躍できるようサポートしていきます。

滋賀県ゴールボール協会 会長 西村秀樹さん(洲本町)

## ユニバーサルで魅力いっぱいの競技を楽しんでほしい



平成4年のフェスピック(アジパラの前身)出場を目標に、ゴールボールが日本に入ってきたのが平成2年。「国際大会がある競技なら日の丸を背負ってできる」と競技を学び、初のゴールボール日本代表キャプテンになりました。

東京オリパラが決まった時に、私は52歳。当時、京都や岐阜でゴールボールを楽しんでいましたが、守山にゴールボールのできる環境を作りたい、残したい、広げたいと思いました。

私にとっては魅力がいっぱいのスポーツ。国スポ・障スポではオープン競技としてゴールボールが守山で開催されます。健常者も視覚障害者も一緒にできるユニバーサルスポーツの楽しさを、多くの人に体験してもらえたらうれしいです。

# スポーツの「楽しい」は心と体の栄養

バドミントン 大岡 正典さん、みずずさんご夫婦



「守山市に若手の強い選手が増えているのがうれしい」

大岡 正典さん

「いつかまた夫婦で試合に出られたら」大岡 みずずさん

大岡 正典さん、みずずさんご夫婦(浮気町)は、生涯スポーツとしてバドミントンを楽しんでいます。子育て中の今は曜日を決めて交代で競技を続け、めまぐるしい毎日を乗り切る活力にしています。

誰でもできるバドミントンは続けたもん勝ちのスポーツ

バドミントンは力量に合わせて誰でも楽しめるスポーツで、親子が公園で遊んでいることもあれば、オリンピックのメダリスト



に喝采することもある。それが魅力といえます。

スポーツは体力や身体能力は高い方が有利ですが、バドミントンの場合、ミスをしないうプレーをする人が勝つこともあります。正典さんは「年齢がいくほど続けたもん勝ち、が分かりやすい競技です」と話します。そのせいか、夫婦で続けている人が多い競技だそうです。

大人になってアスリートに今は生涯スポーツで楽しむ

「夫婦ともバドミントンを始めたのは中学生の時ですが、大人になってからの方が一生懸命練習するようになったそうです。30歳の頃は夫婦でミックスタブルス選手になり、県総体で優勝、全国社会人クラブ大会で年別別全国3位になったこともあります。競技に真剣だった分だけ、夫婦げんかも多かった気がするとか。

みずずさんは、妊娠・出産で3年ほど離れていましたが、正典さんの協力もあって、バドミントンをまた楽しめるようになりました。夫婦で共通の話題、数えきれないくらいの仲間もできました。バドミントンは60歳代

でも70歳代でもできるスポーツなので、いつかまた、正典さんとミックスタブルスで試合に出るのが理想だそうです。

どんなスポーツにも魅力 いろいろな競技を観戦したい

正典さんは市スポーツ協会の役員をしているので、行政とのつながりや、バドミントン以外にもさまざまな競技に関わることもあります。「私はたまたまバドミントンを続けているけれど、ラグビーの『5つのコアバリュー』やトライアスロンの『ゴールしたらだれもが勝者』など、どの競技にもスポーツとしてだけでなく、人間形成にもつながるいろいろな魅力があります。トップを目指すアスリートでなくても、子どもからお年寄りまで、自分に合ったスポーツが見つかれば、心と体の栄養になりますよ」と話していました。スポーツ全般の観戦も好きだという正典さんとみずずさんは、スポーツ愛好家の1人として、国スポ・障スポに何かの形で関わり、守山会場の競技を中心に、いろいろな競技を真近で観戦できるのを楽しみにしています。

国スポまであと562日 障スポまであと589日

## まちの飾りつけ、お出迎え準備ぞくぞく

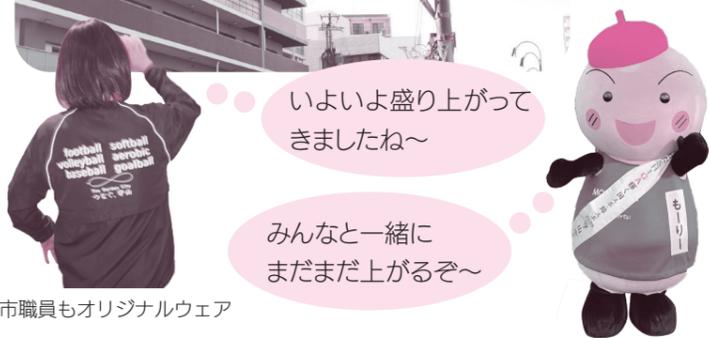
国スポ・障スポ開幕までカウントダウンが進む中、市民の機運を盛り上げ、来市する選手たちを迎える準備が進んでいます。

JR守山駅の西口・東口や周辺の商店街には「炬火」や守山会場で行われる競技をモチーフにした8種類のもりーフラッグがお目見えしました。

駅の階段も国スポPR



銀座通り商店街の街灯にもフラッグ



市職員もオリジナルウェア

いよいよ盛り上がってきましたね～

みんなと一緒にまだまだ上がるぞ～

JR守山駅西口ロータリーのフラッグ



市役所正面入り口側には横断幕

看護師・健康管理士・診療情報管理士・市民救急指導員・スポーツ救護看護師 小早川 香樹さん(水保町)

## 国スポ・障スポを、年齢も性別も垣根なくスポーツを楽しむレガシーに

定年まで県立総合病院で働いた後も、医療、障害、防災に関わるいろいろな勉強をしてきました。

医療にたずさわる人間というなら、スポーツには年齢も性別も障害の有無も垣根はないと思います。逆にとても個性のあるもので、1人ひとりが自分に合ったスポーツを、自分に合ったやり方で行うことが大切です。

経験上、アスリートほど、自分の体をしっかり考えてケアしています。趣味や娯楽のスポーツも、健康維持や心のケアに大きく貢献します。

スポーツをしていない人なら、散歩ではなくウォーキングをしませんか。好きなスポーツの格好や道具からそろえて、わざと後戻りできなくするなど、とにかく体を動かすことが大切です。小さな非日常は心の刺激にもなると思います。

「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ」の開催が近づいてきました。スポーツ環境が整ったり、市町村が会場となった競技の普及が進んだり、昭和56年の国体の時もそうでしたが、国内最大のスポーツの祭典が開催された後には、多くのレガシーが生まれます。

令和7年の大会は、国体から国スポに名称が変わり、誰もが参加できるスポーツ文化の祭典として位置づけられているようです。スポーツを楽しむ人が増えたり、推しの競技や選手を見つけたり、皆が元気に健康になるレガシーが生まれ、未来へつながっていきばいいですね。



「今は、フライングディスクの普及に努めています」